

## 平成24年3月期第1四半期決算概要説明資料

1. 連結損益計算書	…… P. 1
2. 連結貸借対照表	…… P. 2
3. 報告セグメント別業績推移	…… P. 3
4. 報告セグメント別概況	…… P. 4
5. 減価償却費、従業員数等(連結)	…… P. 6

平成23年7月27日

 **日立電線株式会社**

お問合せ先 ビジネスサポート本部人事総務部門総務部広報グループ

TEL 03-6381-1050

FAX 03-5256-3240

# 1. 連結損益計算書

[単位: 億円、( )内は前年同期との増減]

	平成23年3月期			平成24年3月期		
	第1四半期 累計期間 (4~6月)	第2四半期 累計期間 (4~9月)	通期	第1四半期 累計期間 (4~6月)	第2四半期 累計期間 (4~9月) [期初予想]※	通期 [期初予想]※
売上高	1,003	2,076	4,193	1,050 (+47)	2,000 (△76)	4,450 (+257)
営業利益	1	19	8	24 (+23)	△5 (△24)	70 (+62)
営業外損益	2	△10	△26	9 (+7)	—	△10 (+16)
経常利益	3	9	△18	33 (+30)	△16 (△25)	60 (+78)
特別損益	1	1	△107	△11 (△12)	—	△30 (+77)
税金等調整前四半期 (当期)純利益	4	10	△124	22 (+17)	—	30 (+154)
法人税等	1	1	2	3 (+3)	—	15 (+13)
少数株主利益	1	1	3	1 (+0)	—	5 (+2)
四半期(当期)純利益	3	8	△130	17 (+14)	△30 (△38)	10 (+140)

※期初予想:平成23年6月7日に発表した平成24年3月期業績予想(7月27日現在では同日発表予想を据え置き)

## 対前年同期比 増減要因

### (1)売上高増減要因について

・銅価変動による影響	+61
・為替による影響	△29
・純増減	+15
合計	+47

### (2)営業利益増減要因について

・売上増減による利益増減	+3
・資材調達費低減・原価低減	+5
・固定費削減	+17
・銅価変動による影響	+4
・為替による影響	△4
・その他	△2
合計	+23

### (3)経常利益増減要因について

・(2)営業利益の増減要因	+23
・持分法投資利益の増加	+6
・その他	+1
合計	+30

## 2. 連結貸借対照表

[単位: 億円(億円未満四捨五入)]

	平成23年3月期末 (平成23年3月31日現在)	平成24年3月期 第1四半期末 (平成23年6月30日現在)	増 減
流動資産	1,554	1,651	+96
固定資産	1,153	1,145	△8
有形固定資産	820	813	△7
無形固定資産	86	84	△1
投資その他資産	248	248	+0
資産合計	2,708	2,796	+88
流動負債	1,039	1,101	+62
固定負債	608	608	+0
負債合計	1,647	1,708	+62
純資産合計	1,061	1,087	+26
負債純資産合計	2,708	2,796	+88

### 【主な増減要因】

#### (1) 流動資産

[単位: 億円(億円未満四捨五入)]

	平成23年3月期末	平成24年3月期 第1四半期末	増 減
受取手形及び売掛金	817	876	+59
たな卸資産	524	574	+50

#### (2) 負債

[単位: 億円(億円未満四捨五入)]

	平成23年3月期末	平成24年3月期 第1四半期末	増 減
支払手形及び買掛金	590	586	△5
有利子負債	439	513	+74

### 3. 報告セグメント別業績推移

[単位: 億円(億円未満四捨五入)]

#### (1) 報告セグメント別売上高(外部顧客に対する売上高)

	平成23年3月期							平成24年3月期				増 減		
	第1四半期 (4~6月)	第2四半期 (7~9月)	第3四半期 (10~12月)	第4四半期 (1~3月)	上期 累計 (E)	下期 累計 (F)	年度 累計 (G)	第1四半期 (4~6月)	上期 累計 (J)	下期 累計 (K)	年度 累計 (L)	第1四半期 対比 (H)-(A)	上期対比 (J)-(E)	年度対比 (L)-(G)
	(A)	(B)	(C)	(D)				【実績】	【期初予想】	【期初予想】	【期初予想】			
産業システム・電力エネルギー	167	174	202	177	341	379	720	200	350	375	725	+ 33	+ 9	+ 5
光通信	30	35	44	32	65	76	141	36	70	85	155	+ 6	+ 5	+ 14
産業インフラ	197	209	246	209	406	455	861	236	420	460	880	+ 39	+ 14	+ 19
自動車部品	82	95	90	84	177	174	351	81	155	215	370	- 1	- 22	+ 19
電子材料	114	129	120	106	243	226	469	120	220	310	530	+ 5	- 23	+ 61
巻線製線	163	165	167	160	328	328	655	158	335	475	810	- 5	+ 7	+ 155
電機・自動車部品	359	388	377	350	748	727	1,475	359	710	1,000	1,710	- 1	- 38	+ 235
情報ネットワーク	43	66	58	78	109	136	245	52	110	170	280	+ 9	+ 1	+ 35
ワイヤレスシステム	37	42	34	43	79	77	157	24	60	80	140	- 12	- 19	- 17
化合物半導体	33	33	33	25	66	58	125	27	60	70	130	- 5	- 6	+ 5
情報デバイス	113	142	125	146	255	271	526	104	230	320	550	- 9	- 25	+ 24
銅条	85	75	74	83	161	156	317	90	185	190	375	+ 5	+ 24	+ 58
伸銅	98	89	99	104	188	204	391	118	180	175	355	+ 19	- 8	- 36
リードフレーム	33	35	32	27	68	59	127	32	65	75	140	- 1	- 3	+ 13
パッケージ材料	45	42	30	20	87	50	137	26	50	50	100	- 19	- 37	- 37
金属材料	262	242	235	234	503	469	972	266	480	490	970	+ 4	- 23	- 2
販売会社	72	92	91	104	164	194	358	85	160	180	340	+ 13	- 4	- 18
販売会社	72	92	91	104	164	194	358	85	160	180	340	+ 13	- 4	- 18
計	1,003	1,073	1,073	1,044	2,076	2,117	4,193	1,050	2,000	2,450	4,450	+ 47	- 76	+ 257

旧事業セグメントによる区分		
産業用・電力用ケーブル	←	
自動車用部品	←	
光・通信ケーブル	←	
機器用電線・配線部品	←	
巻線	←	
電機・産業システム事業		
情報ネットワーク	←	
ワイヤレスシステム	←	
情報システム事業		
化合物半導体	←	
TAB	←	
半導体材料事業		
伸銅品	←	
リードフレーム	←	
金属材料事業		
販売会社	←	
販売会社		

#### (2) 報告セグメント別営業利益

	平成23年3月期							平成24年3月期				増 減		
	第1四半期 (4~6月)	第2四半期 (7~9月)	第3四半期 (10~12月)	第4四半期 (1~3月)	上期 累計 (E)	下期 累計 (F)	年度 累計 (G)	第1四半期 (4~6月)	上期 累計 (J)	下期 累計 (K)	年度 累計 (L)	第1四半期 対比 (H)-(A)	上期対比 (J)-(E)	年度対比 (L)-(G)
	(A)	(B)	(C)	(D)				【実績】	【期初予想】	【期初予想】	【期初予想】			
産業インフラ	△ 3	△ 1	△ 3	△ 5	△ 3	△ 7	△ 11	9	4	12	16	+ 12	+ 7	+ 27
電機・自動車部品	5	9	8	9	14	16	30	8	3	34	37	+ 3	- 11	+ 7
情報デバイス	△ 4	4	2	5	1	7	8	△ 1	△ 11	25	14	+ 2	- 12	+ 6
金属材料	△ 3	△ 1	△ 15	△ 13	△ 4	△ 28	△ 32	4	0	3	3	+ 7	+ 4	+ 35
販売会社	3	4	6	5	7	11	19	5	6	14	20	+ 1	- 1	+ 1
調整額	1	3	△ 8	△ 2	4	△ 10	△ 6	△ 1	△ 7	△ 13	△ 20	- 2	- 11	- 14
連結全社合計	1	18	△ 11	△ 0	19	△ 11	8	24	△ 5	75	70	+ 23	- 24	+ 62

注1: 平成23年3月期の報告セグメント別の売上高、営業利益については、会計士によるレビュー手続きは行っておりません。

注2: 単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所があります。

## 4. 報告セグメント別概況

### (1) 産業インフラ

[単位: 億円(億円未満四捨五入)]

	平成23年3月期			平成24年3月期			増 減		
	第1四半期 (4~6月) (A)	上期 累計 (B)	年度 累計 (C)	第1四半期 (4~6月) (D)	上期 累計 (E) 【期初予想】	年度 累計 (F) 【期初予想】	第1四半期 対比 (D) - (A)	上期対比 (E) - (B)	年度対比 (F) - (C)
産業システム・電力エネルギー	167	341	720	200	350	725	+ 33	+ 9	+ 5
光通信	30	65	141	36	70	155	+ 6	+ 5	+ 14
売上高	197	406	861	236	420	880	+ 39	+ 14	+ 19
営業利益	△ 3	△ 3	△ 11	9	4	16	+ 12	+ 7	+ 27

#### ◆前第1四半期からの増減および第2四半期以降の需要動向

産業システム・電力エネルギー	<p>【1Q】震災影響により、電力会社の計画補修需要が減少した一方、産業用ケーブルは供給停滞の反動と復興需要により建設向けを中心に需要が伸長し、全体として前年同期を大きく上回った。</p> <p>【2Q以降】1Qは、震災直後に電線・ケーブルの供給が停滞した反動から、一時需要が急増した。この傾向は2Qにはおさまるが、下期以降に電力関係(火力発電等)や鉄道、大型プラント等の復興需要が見込まれるため、年間で前年度を上回る見通し。</p>
光通信	<p>【1Q】被災地の復興に向けて、メタル通信ケーブルをはじめとした通信インフラ関連製品の需要が増加し前年同期を上回った。</p> <p>【2Q以降】メタル通信ケーブルは2Q半ばまで復興需要が続く見込み。下期以降は、光通信ケーブルの需要が復調する見通し。</p>

### (2) 電機・自動車部品

[単位: 億円(億円未満四捨五入)]

	平成23年3月期			平成24年3月期			増 減		
	第1四半期 (4~6月) (A)	上期 累計 (B)	年度 累計 (C)	第1四半期 (4~6月) (D)	上期 累計 (E) 【期初予想】	年度 累計 (F) 【期初予想】	第1四半期 対比 (D) - (A)	上期対比 (E) - (B)	年度対比 (F) - (C)
自動車部品	82	177	351	81	155	370	- 1	- 22	+ 19
電子材料	114	243	469	120	220	530	+ 5	- 23	+ 61
巻線製線	163	328	655	158	335	810	- 5	+ 7	+ 155
売上高	359	748	1,475	359	710	1,710	- 1	- 38	+ 235
営業利益	5	14	30	8	3	37	+ 3	- 11	+ 7

#### ◆前第1四半期からの増減および第2四半期以降の需要動向

自動車部品	<p>【1Q】海外子会社(1~3月)は堅調に推移したが、国内は震災に伴う自動車メーカーの生産調整の影響を受け低調となり前年同期を若干下回り、全体として横ばいとなった。</p> <p>【2Q以降】2Qは震災に伴う海外子会社(4~6月)での減少も加わるため、上期中は低調な推移。下期は上期減産の反動から自動車メーカーが増産に転じるため、需要は増加の見込み。4Qには海外子会社の決算期統一の影響により、海外子会社の平成24年1月~3月分の業績が加わるため、年間では前年度を上回る見通し。</p>
電子材料	<p>【1Q】国内は震災の影響により一部資材の調達環境が悪化したほか、薄型TV向け製品の需要も減少した。一方、海外は順調に推移したことから、全体としては前年同期を上回った。</p> <p>【2Q以降】下期以降は震災影響から脱却し、家電メーカーの復調に伴って回復する見込み。4Qには海外子会社の決算期統一の影響により海外子会社の平成24年1月~3月分の業績が加わるため、年間では前年度を上回る見通し。</p>
巻線製線	<p>【1Q】国内は震災の影響や自動車の減産により電装分野向けが減少したことから前年同期を下回った。</p> <p>【2Q以降】重電分野向けは復興計画の遅れにより2Q以降も伸び悩む見込み。一方、電装分野向け、家電や産業機器で使用される一般・産業向けの巻線は、自動車メーカー、家電メーカーの復調に伴って、下期以降回復する見通し。</p>

注1: 平成23年3月期の報告セグメント別の売上高、営業利益については、会計士によるレビュー手続きは行っていません。

注2: 単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所があります。

## 4. 報告セグメント別概況

### (3)情報デバイス

[単位: 億円(億円未満四捨五入)]

	平成23年3月期			平成24年3月期			増減		
	第1四半期 (4~6月) (A)	上期 累計 (B)	年度 累計 (C)	第1四半期 (4~6月) (D)	上期 累計 (E) 【期初予想】	年度 累計 (F) 【期初予想】	第1四半期 対比 (D) - (A)	上期対比 (E) - (B)	年度対比 (F) - (C)
情報ネットワーク	43	109	245	52	110	280	+9	+1	+35
ワイヤレスシステム	37	79	157	24	60	140	-12	-19	-17
化合物半導体	33	66	125	27	60	130	-5	-6	+5
売上高	113	255	526	104	230	550	-9	-25	+24
営業利益	△4	1	8	△1	△11	14	+2	-12	+6

#### ◆前第1四半期からの増減および第2四半期以降の需要動向

情報ネットワーク	【1Q】一般企業向けが堅調、通信事業者向けもLTEのモバイルバックホール用需要増加から前年同期を上回った。 【2Q以降】通信事業者向けのモバイルバックホール用需要が引き続き好調に推移するほか、一般企業向けのデータセンタ関連需要も増加することから前年度を上回る見通し。
ワイヤレスシステム	【1Q】携帯基地局向け需要が端境期となり前年同期を下回った。 【2Q以降】放送用アンテナで、海外への事業展開を進めるが、国内放送用アンテナ市場の縮小や携帯基地局向け需要の減少・小型化により前年度を下回る見通し。
化合物半導体	【1Q】震災に伴う生産停滞により前年同期を下回った。 【2Q以降】高周波デバイス向けエピウエハで、スマートフォン需要の取込みを加速し、前年度を上回る見通し。

### (4)金属材料

	平成23年3月期			平成24年3月期			増減		
	第1四半期 (4~6月) (A)	上期 累計 (B)	年度 累計 (C)	第1四半期 (4~6月) (D)	上期 累計 (E) 【期初予想】	年度 累計 (F) 【期初予想】	第1四半期 対比 (D) - (A)	上期対比 (E) - (B)	年度対比 (F) - (C)
銅条	85	161	317	90	185	375	+5	+24	+58
伸銅	98	188	391	118	180	355	+19	-8	-36
リードフレーム	33	68	127	32	65	140	-1	-3	+13
パッケージ材料	45	87	137	26	50	100	-19	-37	-37
売上高	262	503	972	266	480	970	+4	-23	-2
営業利益	△3	△4	△32	4	0	3	+7	+4	+35

#### ◆前第1四半期からの増減および第2四半期以降の需要動向

銅条	【1Q】震災による生産調整があった自動車市場向け製品や半導体市場向け製品の需要が低調となったが、銅箔がスマートフォン需要により好調に推移したほか、銅価上昇の影響もあり前年同期を上回った。 【2Q以降】下期以降は自動車市場、半導体市場向けの需要回復により前年度を上回る見込み。
伸銅	【1Q】銅管はエアコン需要が順調に推移したほか、電気用伸銅品、加工品も堅調。銅価上昇の影響もあり前年度を大きく上回った。 【2Q以降】2Qはエアコン向け需要が引き続き好調に推移する見込み。エアコン需要により銅管需要が急拡大した前年度と比べると下期以降は減少する見通し。
リードフレーム	【1Q】震災に伴い自動車市場向け製品や、半導体市場向け製品の需要が減少し、全体として前年同期とほぼ横ばいとなった。 【2Q以降】下期以降の半導体市場の回復と車載向けの拡大により前年度を上回る見通し。
パッケージ材料	【1Q】メモリー用は堅調だが、特定用途で需要が減少。液晶用COF事業からの撤退による減少もあり前年同期を下回った。 【2Q以降】下期以降メモリー用の需要伸長を見込むが、液晶用COF事業撤退の影響で売上は前年度を下回る予想。利益では事業撤退により改善の見通し。

### (5)販売会社

	平成23年3月期			平成24年3月期			増減		
	第1四半期 (4~6月) (A)	上期 累計 (B)	年度 累計 (C)	第1四半期 (4~6月) (D)	上期 累計 (E) 【期初予想】	年度 累計 (F) 【期初予想】	第1四半期 対比 (D) - (A)	上期対比 (E) - (B)	年度対比 (F) - (C)
販売会社	72	164	358	85	160	340	+13	-4	-18
売上高	72	164	358	85	160	340	+13	-4	-18
営業利益	3	7	19	5	6	20	+1	-1	+1

注1:平成23年3月期の報告セグメント別の売上高、営業利益については、会計士によるレビュー手続きは行っていません。

注2:単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所があります。

## 5. 減価償却費、従業員数等(連結)

### (1) 減価償却費ほか

[単位: 百万円]

	平成23年3月期				平成24年3月期			
	第1四半期累計 (4~6月)	第2四半期累計 (4~9月)	第3四半期累計 (4~12月)	年度 累計	第1四半期累計 (4~6月)	第2四半期累計 (4~9月)	第3四半期累計 (4~12月)	年度 累計 【期初予想】
産業インフラ	823	1,682	2,538	3,375	697	-	-	3,300
電機・自動車部品	1,309	2,712	4,111	5,541	1,212	-	-	6,100
情報デバイス	948	1,945	2,972	4,017	887	-	-	4,000
金属材料	1,673	3,421	5,196	7,068	1,150	-	-	5,100
販売会社	32	69	110	147	35	-	-	200
<b>減価償却費合計</b>	<b>4,785</b>	<b>9,829</b>	<b>14,927</b>	<b>20,148</b>	<b>3,981</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>18,700</b>
産業インフラ	334	843	1,214	1,685	445	-	-	2,600
電機・自動車部品	979	1,868	2,711	3,318	961	-	-	8,200
情報デバイス	549	1,252	1,734	2,348	566	-	-	2,800
金属材料	678	1,423	2,104	2,732	545	-	-	2,200
販売会社	29	46	57	70	10	-	-	0
<b>有形固定資産及び 無形固定資産の増加額合計 (資本的支出)</b>	<b>2,569</b>	<b>5,432</b>	<b>7,820</b>	<b>10,153</b>	<b>2,527</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>15,800</b>
研究開発費	2,400	4,840	7,300	9,034	2,166	-	-	10,000
売上高研究開発費比率	2.4%	2.3%	2.3%	2.2%	2.1%	-	-	2.2%
有利子負債	61,046	53,464	54,613	43,893	51,297	-	-	43,632
金融収支	△ 108	△ 256	△ 477	△ 744	△ 144	-	-	△ 713

### (2) 従業員数

[単位: 人]

	平成22年 6月末	平成22年 9月末	平成22年 12月末	平成23年 3月末	平成23年 6月末	平成23年 9月末	平成23年 12月末	平成24年 3月末 【期初予想】
産業インフラ	2,332	-	-	2,235	2,214	-	-	2,170
電機・自動車部品	8,721	-	-	9,011	8,953	-	-	9,360
情報デバイス	1,219	-	-	1,201	1,206	-	-	1,160
金属材料	2,198	-	-	2,124	2,086	-	-	1,990
販売会社	782	-	-	764	768	-	-	780
全社共通	740	-	-	729	731	-	-	700
<b>従業員数合計</b>	<b>15,992</b>	<b>16,456</b>	<b>16,225</b>	<b>16,064</b>	<b>15,958</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>16,160</b>